中央区文化･国際交流振興協会だより

Chuo Cultural And International Exchange Association

「川越両替商」（1987 年） 小川幸治　中央区立郷土天文館所蔵

● 特集 ●

中央区西郷隆盛こぼれ話

～西郷どんと龍馬の妻・お龍～　伊東　成郎

- 第 26 回中央区国際交流のつどい
- 平成 29 年度の事業報告と決算
- 中央区まるごとミュージアム 2018

No.70 December 2018

中央区文化･国際交流振興協会発行

中央区
西郷隆盛こぼれ話
～西郷どんと龍馬の妻・お龍～

伊東（いとう）　成郎（せいろう）

第 20 回記念中央区古典芸能鑑賞会

平成 30 年 6 月に開催した第 20 回記念中央区古典芸能鑑賞会では、その公演の中で、江戸幕末維新史・新選組研究家としてご活躍の伊東　成郎氏（新富町在住）を講師にお招きし、「中央区西郷隆盛こぼれ話～西郷どんと龍馬の妻・お龍～」と題して講演していただきましたところ、大変好評でありました。

**　そこで、このたび講演に関連した内容で寄稿していただきました。**

伊東　成郎　プロフィール

中央区明石町に生まれる。
明治大学文学部史学地理学科卒業
祖父が明治 41 年に新富町に創業した写真館三代目当主
元中央区江戸開府 400 年記念事業検討委員会委員

主な著書
『新選組と刀』『新選組最新夜話』（河出書房新社）
『新選組二千二百四十五日』『幕末維新秘史』（新潮社・新潮文庫）
『忠臣蔵 101 の謎』『土方歳三の日記』（新人物往来社）
『江戸・幕末を切絵図で歩く』（PHP）
『新選組史料大全』（共編）（KADOKAWA）　他

西郷隆盛は明治の初め、短い期間ながら本中央区に住んでいる。

跡地内にある区立日本橋小学校の前に、中央区教育委員会により屋敷跡の表示が立てられているが、西郷邸は日本橋人形町１−１、日本橋蛎殻町１丁目北西部、日本橋小網町１丁目北西部をまたぐ広い敷地を有していた。当時の記録には多く、小網町の屋敷と記される。

西郷がこの地に住んだのは、明治４年（1871）の夏ごろからだった。

４月に鹿児島から上京した西郷は、明治新政府の重鎮として活躍。そして明治６年 10 月に、政策を巡る閣内対立により辞職して鹿児島へ戻る。西郷はその間の約２年数ヵ月を本区内に拠点を置いていた。

では、この小網町の屋敷で、西郷はどんな暮らしをしていたのだろうか。重要な手がかりになる資料として、西郷の下男・永田熊吉が、明治 32 年頃に報知新聞記者・村井弦斎（げんさい）らの取材に答えた、当時の回想記録（『絵入通俗　西郷隆盛一代記』収録）がある。

屋敷の規模を熊吉は次のように伝えた。

小網町の屋敷は、元播州姫路の蔵屋敷でありました（中略）屋敷地はなかなか広く、今の米穀取引所の辺から、第五銀行の所まで引き回して、ひと屋敷となっておりました。しかし建物はいたって少なく、家屋が三棟と土蔵が二棟で、裏表には長屋が建っていました。裏の長屋は四十間ばかり、表の長屋は二十五間ばかりで、その中央に表門がありました。

（中略）主人（西郷）の住まわれていた家はいたって手狭でござりまして、玄関が八畳、客間が十二畳二間、小間が六畳、居間が八畳と六畳の二間、私ら（使用人）のおります所が八畳二間でありました。

ちなみに敷地は 2,633 坪あった。

西郷隆盛邸跡地一帯

西郷隆盛屋敷跡の説明板

また、熊吉は西郷の日常生活についても興味深い話を伝えている。

たとえば西郷邸では、熊吉らが賄えない厄介な洗濯ものは白木屋へ依頼したという。白木屋は現在のコレド日本橋の所にあった、寛文２年（1662）創業の老舗呉服店である。

白木屋跡（コレド日本橋）

「名水白木屋の井戸」の碑

また、西郷には特に好んだ料理店があったという。熊吉は次のように証言した。

洋食は精養軒から取り寄せました。その頃洋食屋は精養軒ぐらいで、ほかになかったようです。葡萄（ぶどう）酒なども精養軒から取り寄せ（中略）お

雇い教師（政府が日本に招いた外国人の学者や技師）などを招いてご馳走する時には、精養軒の者が参って一切のことをやっておりました。

現在上野にある精養軒だが、西郷が小網町にいた頃は京橋采女町（現在の新橋演舞場付近）にあった。やがて、西郷が鹿児島へ戻った後、精養軒は上野へ移転することになる。

精養軒と、贔屓にした西郷の銅像が、その後上野の山に揃ったのはまったくの偶然だが、歴史の妙かとも思う。

熊吉によると、西郷はこの屋敷に四五頭の猟犬を飼っていたという。

西郷は、生涯に渡って犬を溺愛したことでも知られるが、こんな話も残っている。

ある日、軍隊の中で妙な噂が立った。西郷が小網町の屋敷に、愛人を二人も囲っているというのである。聖人君子のような西郷先生もやはり男なのだなと、興味津々の若い軍人たちが小網町を訪ねた。そして西郷に、噂は本当なのかと大胆不敵に尋ねたという。

上野公園の西郷隆盛像（台東区）

西郷は「本当でごわす」と笑って、「お引き合わせ申そう」と奥へ消えていった。

手に汗を握って待つ若い軍人たちの前に、西郷が再びやってきた。でも連れてきたのは女性ではなく、二匹の猟犬だった。

「これらが最近召抱えたおいどんの愛妾で、なかなか可愛い奴らでごわす」と頬擦りする西郷を見て、軍人たちは恐縮して退散していったという。

心底、犬愛にあふれた人物だったようだ。

なお、貴重な話を残した下男の熊吉は、西郷の散華から25年後の明治35年に死去した。

隆盛の弟の従道も、熊吉のことをたいそう慈しんだ。そして、現在、西郷山公園として整備されている現目黒区青葉台の豪邸に、晩年の熊吉を家族ともども住まわせている。

熊吉は、この豪邸で死去したが、従道は盛大な葬式を挙行し、参列者に向かって、私のもう一人の兄が亡くなりましたと挨拶をし、大きな目から涙を流したという。

西郷隆盛は、178センチ、117キロという肥満体だった。首回りは47センチ、餅を延ばしたような福耳も特徴だった。高血圧ながら、塩分の多い食生活が好みで、一時、命も危ういほどの健康悪化に陥っている。

明治天皇はそんな西郷を慮り、ドイツ人の医者を小網町へ遣わしている。西郷はこの医者の助言を受け、一時、小網町を離れ、弟の従道の別荘で療養生活を続けた。

この別荘は、今のＪＲ渋谷駅東口の金王八幡神社のあたりにあったという。現在では想像もつかないが、西郷は健康のため、今の渋谷駅前から頻繁に歩いて兎狩りに出向いている。幸い、体調はかなり回復したという。

そんな小網町の西郷に、１年にわたって生活の援助を受けていた人物がいた。坂本龍馬の未亡人のお龍である。

お龍は、美人ながらいささかとっつきの悪い、今で言うとツンデレ気味の女子だった。

そんな性格が裏目に出たものか、龍馬の没後、孤立し、辛酸を嘗めた生活をしていた。

幕末にお龍は、龍馬ともども、西郷隆盛に大変に世話になっていた。鹿児島の温泉へ新婚旅行をしたときも、西郷がサポートをしている。そんな恩人を、お龍は今度は東京、それも本中央区で頼ったのである。

明治32年の５月から６月にかけ、お龍が記者に語った「坂本龍馬の未亡人」と題する回想が、報知新聞に連載されていた。これまで知られていなかった本区でのお龍と西郷の関わりは、この回想にのみ伝えられている。

なお、 別の記録に、お龍は、自分はこの頃、築地に住んでいたと証言している。残念ながら住所の特定はできていない。

築地から旧小網町までは、２キロ程度の徒歩圏内である。築地の家は、西郷がお龍のために用意した新居だったのかもしれない。

お龍は明治５年９月に上京、たまたま訪ねた旧知の薩摩出身の閣僚・吉井友実邸で、偶然西郷に再会したという。その後、数々の援助を受けたようだが、残念ながら僅か１年で別れが訪れる。明治６年10月のことだった。

お龍は語る。

征韓論の事から、大西郷さんには同志の方々と九州へお帰りになる都合で、九州から帰京した場合には、再び世話をしてやるがと、おっしゃってくださいました。

御帰国の前日、日本橋の鎧橋でお目にかかりますと、いよいよ明日九州へ帰る。いずれまた逢う期があろう。身を大事にしやれと情けをこめたお言葉で、本意なくもお別れをしましたが、それがお別れで忽ち（明治）十年の戦争となり、果ては城山の露とおなりなされ、私の望みの綱も断たれ、またも一人で浮世の波に漂わねばならぬ身となりました。

それまで渡船が通っていた日本橋川に、鎧橋が架橋されたのは明治５年のことだった。西郷とお龍が決別した時、確かに橋はあった。そして鎧橋は西郷の屋敷からも間近い。

お龍の証言に、偽りはないと思う。

今は頭上に首都高速の架かるこの橋を、もし皆様が何かの折に歩かれた際には、百四十余年前のささやかな永訣の物語を、喧噪の中、一瞬でも思っていただければ幸いである。

鎧橋

「来日して約10年！
大好きな太鼓で
毎年イベントを盛り上げています」
トピチゴランさん
［クロアチア出身］

●着付け
Kimono Etiquette

●スリランカの料理
Sri Lankan Foods

●サリー着付け
How to put on a Sari

●日本の遊び・海外の遊び
Japanese Games・Foreign Games

●呈茶・茶道体験
Tea Ceremony and Experience

●サルサ
Salsa Dance

●折り紙
Origami

●生け花体験
Flower Arrangement Experience

●和太鼓ワークショップ
Taiko (Japanese Drum) Workshop

●防災コーナー
Disaster Preparedness

第26回中央区

26th Ch
International E

11月17日（土）、築地
「第26回中央区国際交流
31カ国出身の外国人86
国際色豊かなひと時を過ご

中央区文化・国際交流振興協会が、ボランティアの方々と協働して毎年秋に開催している「中央区国際交流のつどい」。今年も31カ国からの外国人を含む計423人にご参加いただき、温かな触れ合い溢れる国際交流を楽しみました。

正午のイベント開始と同時に多くの方で賑わったのは、「スリランカカレーとミルクティー」「けんちん汁」が振る舞われた料理コーナー。約10種類のスパイスを使ったチキンカレーに、ポリサンボーラというココナッツのふりかけ、パパダンという豆の粉で作った揚げせんべいを添えたスリランカカレーは、ひと味違うおいしさで大好評。具だくさんのけんちん汁も、おかわりする人が続出する人気ぶりでした。

今年はスリランカ独立70周年を記念して「スリランカの紹介」ルームも設置され、戦後、スリランカによって救われた日本の知られざる歴史をはじめ、中央区発のNGOワンワールド・ワンピープル協会の活動などが紹介されました。毎年大好評の「スリランカサリーの着付け」では、多くの人が民族衣装に袖を通しエキゾチックな装いを楽しみました。

様々な日本文化に触れられるのも本イベントの醍醐味です。「長唄三味線を弾いてみよう！」では、杵屋六多之先生の手ほどきのもと『さくらさくら』を演奏。初めて手にするバチに戸惑いながらも、最後はみんなで合奏に挑みました。外国人限定の「着付け」コーナーでは、

●スリランカミルクティー
Sri Lankan Milk Tea

●日本の料理
Japanese Foods

「お茶や盆ダンスが楽しかったです。
子供たちは遊びコーナーに夢中！」

ピーターヨハンソンさん
アレクサンドラちゃん
アリシアちゃん
［スウェーデン出身］

●スリランカの紹介（独立 70 周年記念）
Introduction of Sri Lanka

国際交流のつどい

11/17(SAT)
12:00～
16:00

●盆踊り
Japanese Bon Dance

●墨絵
Sumie Ink Drawing

uo City
xchange Party

社会教育会館で
のつどい」が開催されました。
人を含む 423 人が参加し、
ごしました。

●長唄三味線を弾いてみよう！
Let's try Shamisen !

●風呂敷
Furoshiki Wrapping

「初めて着物を着ました！
きつくて大変だったけれど
綺麗で欲しくなりました♪」

アシアさん［ロシア出身］
ナターシャさん［スロベニア出身］

●フォークダンス
Swedish Folk Dance

男女約 35 着もの和服の中から好きなものを選んで着付けをしてもらえるとあって、晴れ着に負けない華やかな笑顔で終始大賑わい。見慣れぬ自分の和装姿を写真におさめようと夢中になる人が続出しました。先着 60 名限定の「生け花体験」では、花ばさみを手に生け花の面白さに触れることができました。もちろん花はお土産に。「呈茶・茶道体験」では、京橋の老舗和菓子屋の「焼き栗」とともに、お抹茶のおもてなしが。和筆で描く「墨絵」には、絵心をくすぐる枝つきのザクロや柿などの画材がずらり。半紙に筆でサインを書くのは初めて、という外国人も少なくなかったようです。「日本の遊び・海外の遊び」「折り紙」「風呂敷」のコーナーは、教え合い遊び合いの輪が広がり、和気あいあい。「和太鼓ワークショップ」では、迫力満点の演奏の後にみんなでバチを握っての即興演奏会を満喫。盆踊り、フォークダンス、サルサのステージが披露された「踊りコーナー」では、みんなが輪になり手を取り合ってダンスに興じました。盆踊りでは 2020 の数字を振り付けに取り入れた「オリンピック音頭」も！

このほか「防災コーナー」では、災害時の行動や日本での生活情報が各国語に翻訳されて提供されました。

楽しいプログラムを通じて、年齢も国も越え、身振り手振りでお互いの国の文化を感じ合うことができた素敵なひと時。今年も忘れられない国際交流の場となりました。

平成 29 年度の事業報告と決算

平成 29 年度事業報告

平成 30 年 6 月 7 日（木）に開催されました理事会において、平成２９年度の事業報告及び収支決算報告が承認されました。その概要を報告します。

Ⅰ　文化振興事業

（1）機関誌の発行

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行しました。

発行部数等　5,500 部　A4 判　8ページ
発行回数　　年２回(平成29年7月―第67号、同年１２月―第68号)

（2）ホームページの運営

ホームページを適宜更新して、事業紹介やイベント等の情報を提供しました。
なお、スマートフォンにも対応できるよう情報発信機能を充実するとともに、分かりやすく見やすいホームページにリニューアルし、平成 30 年３月１日から運用を開始しました。
URL:https://www.chuo-ci.jp/
また、twitterやfacebookを利用して情報発信も行いました。

（3）コンサートの開催

親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供しました。

日　　時　平成 29 年 10 月6日（金）
　　午後 6 時 45 分開演
会　　場　日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内　　容　チェロ＆ピアノ＆バレエによるスペシャルコンサート
出 演 者　海野　幹雄、新垣　隆、佐々木 和葉、日原　永美子
入場者数　369 名
参 加 費　1,500 円

（4）文化講座の開催

「まちかど展示館」から講師を迎え、中央区のまちかどに息づく歴史や脈々と受け継がれる伝統の技、繊細な手仕事等について学ぶ講座（参加費無料）を開催しました。

第一回
日　　時　平成 29 年 9 月 14 日（木）
　　午後 6 時 45 分開演
内　　容
及び講師　・大奥も魅了した刷毛、使ってみませんか ～将軍家お墨付きの刷毛を今に伝える技術力～
　　江戸屋所蔵刷毛ブラシ展示館（株式会社江戸屋 ）
　　代表取締役　濱田　捷利
　　・箒の歴史、箒の未来 ～七代続く老舗の内幕～
　　江戸ほうき展示館（株式会社白木屋中村傳兵衛商店）
　　白木屋傳兵衛六代目店主　中村 梅吉

第二回
日　　時　平成 29 年9月 21 日（木）
　　午後 6 時 45 分開演
内　　容
及び講師　・江戸文字の華麗な世界 ～今も最先端、江戸のデザイン力～
　　のれん・提灯・下絵の展示館（有限会社津多屋商店）
　　代表取締役　加藤木　大介
　　・人は紙をつくり紙は文化をつくる ～日本が誇る made in Japan ～
　　小津史料館（株式会社小津商店）
　　館長　松浦　節也

第三回
日　　時　平成 29 年9月 28 日（木）
　　午後 6 時 45 分開演
内　　容
及び講師　・ゆかたの魅力、染の魔力 ～伝統技法を守り続ける三勝のゆかた～
　　ゆかた博物館（三勝株式会社）
　　館長　清水　敬三郎
　　・お抱えアーティストは国芳、広重！ ～政治も流行も！？版元の力はすごいんです～
　　伊場仙浮世絵ミュージアム（株式会社伊場仙）
　　代表取締役社長　吉田　誠男
会　　場　日本橋社会教育会館ホール
参加者数　延 231 名

（5）特別文化講演会の開催

各展覧会に関連した講演会（参加費無料）をＮＨＫとの共催により開催し、区民等の文化意識の向上を図りました。

①国立新美術館開館 10 周年・チェコ文化年事業「ミュシャ展」関連文化講演会
日　　時　平成 29 年４月 11 日（火）
　　午後 6 時 50 分開演
会　　場　日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講　　師　国立新美術館　主任研究員
　　本橋　弥生
参加者数　423 名

②「アルチンボルト展」関連文化講演会
日　　時　平成 29 年７月 13 日（木）
　　午後 6 時 50 分開演
会　　場　日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講　　師　慶応義塾大学講師　原田　亜希子
参加者数　415 名

③「ゴッホ展　巡りゆく日本の夢」関連文化講演会
日　　時　平成 29 年 11 月 14 日（火）
　　午後 6 時 50 分開演
会　　場　日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講　　師　東京都美術館　学芸員　岡本　純子
参加者数　428 名

④「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」関連文化講演会
日　　時　平成 30 年３月 16 日（金）
　　午後 6 時 50 分開演
会　　場　日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講　　師　国立新美術館　主任研究員　山田　由佳子
参加者数　426 名

（6）古典芸能鑑賞会の開催

中央区に深い関わりを持つ古典芸能を鑑賞する機会を提供することで、由緒ある伝統文化に対する愛着心を育み、その継承・普及を図りました。企画・制作は、「中央区古典芸能の会」に委託しました。

日　　時　平成 29 年６月 10 日（土）
　　午後５時開演
会　　場　日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内　　容　講話「中央区と忠臣蔵」
　　―日本橋の大石内蔵助と本願寺に葬られた赤穂浪士―
　　演奏　長唄「島の千歳」
　　舞踊　長唄「浦島」
　　落語　「抜け雀」
　　舞踊　長唄「鶯宿梅」
入場者数　369 名
参 加 費　2,000円(中学生以下　1,000円)

（7）文化推進事業助成

区内文化活動をさらに促進していくために、区民等による文化活動等に対し、その経費の一部を助成するとともに、後援を行いました。

（助成）
①文化創造・発信事業助成
助成金額：当該事業の対象経費の９／１０の範囲内（上限 200 万円）
助成件数：ア　平成 29 年度助成実施件数（平成 28 年度助成決定）　４件
　　イ　平成 29 年度助成決定件数（平成 30 年度助成実施）　４件
②文化団体活動助成
助成金額：当該団体活動の対象経費の１／２の範囲内（上限 40 万円）
助成件数：ア　平成 29 年度助成実施件数（平成 28 年度助成決定）　１件
　　イ　平成 29 年度助成決定件数（平成 30 年度助成実施）　２件
③文化推進事業助成
助成金額：当該事業の対象経費の１／２の範囲内（上限 10 万円）
助成件数：２件
（後援）
後援件数：14 件

（8）中央区まるごとミュージアムの開催

文化・芸術の秋に、無料のバスや船で区内を回遊しながら本区のさまざまな文化的魅力を区民等が体験できるよう、第１０回「中央区まるごとミュージアム２０１７」を中央区との共催で実施しました。

日　　時　平成 29 年 10 月 29 日（日）
　　午前９時～午後５時
場　　所　中央区全域
実施結果
- バス乗車人数（区内巡回、都営バス借上げ。江戸バス無料）　合計 3,229 名
- 乗船人数（日本橋周遊、浜町～晴海、明石町水辺ライン周遊、日本橋～晴海の４コース）　合計 879 名
- イベント事業数　43 事業及び４協賛事業等
- イベント参加者数　延 30,000 名

（9）文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」の提言（平成 20 年３月中央区文化振興懇談会提言）に基づき、中央区と協会が協力して区民（企業、ＮＰＯ等を含む。）の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、平成 20 年度に文化への関心が高い専門家等からなるプロデュースチーム（構成員６名）を設置しました。
平成 29 年度は、まるごとミュージアム 2017 の事業者連絡会に出席し意見を述べるとともに、区内全体の文化事業の推進について協議を行いました。

Ⅱ　国際交流振興事業

（1）国際交流のつどい

外国人と日本人との交流を推進するため、「第 25 回中央区国際交流のつどい」（参加費無料）を開催し、日本と外国の伝統文化の紹介や体験、踊り、料理の紹介等を通して相互の親交を深めました。

日　　時　平成 29 年 11 月 18 日（土）
　　正午～午後４時
会　　場　築地社会教育会館
内　　容
○ 伝統文化体験コーナー（着付け、茶道、生け花、墨絵、風呂敷の使い方、和太鼓ワークショップ、折り紙）

○ 懇談コーナー（料理）（ロシア料理「ピロシキ、ボルシチ、ブルヌイ、」スリランカミルクティー、日本の料理「けんちん汁」）
○ 国際交流サロン（三味線の演奏と体験、ティールーム、国際交流サロンの紹介）
○ 防災コーナー（防災用品の展示、非常食の試食等）
○ サリーの着付け
○ 日本の遊び・海外の遊び（将棋などの日本の伝統的な遊びとチェスなどの海外の遊びを紹介）
○ 踊りのコーナー（ロシア舞踊、盆踊り、サルサ）
○ イタリアの世界遺産紹介

参加者数　473 名（外国人 101 名、日本人 187 名、ボランティア 178 名、事務局 7 名）

（2）国際交流サロンの開催

区内在住・在勤の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて交流を楽しめる場を提供するため、ボランティアの協力を得て「国際交流サロン」（参加費無料）を月 1 回（11 月を除く。）開催しました。

会　　場　協会講習室他
内　　容　スプリング・ティー・パーティ、和菓子づくり、七夕祭り、アイスコーヒーづくり、盆踊り、スポーツで交流、もんじゃづくり、凧づくり、茶道体験、防災訓練、ちぎり絵づくり
実施回数　11 回
参加者数　外国人 延 111 名、日本人 延 148 名、ボランティア 延 27 名

（3）日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人を対象に、協会の日本語ボランティアによる語学の指導及び学習者と指導者の相互理解を深める場として、通年で教室を運営しました。また、教室参加希望者の増加や多様化する要望に対応するため、ボランティア主催による教室の運営について、助成金の交付や後援名義の使用、学習者紹介等の支援を行いました。

（4）日本語指導者養成講座の開催

日本語教室の受講を希望する外国人の増加と多様化する要望に対応するため、協会主催の日本語教室やボランティアが自主的に運営する日本語教室で、ボランティア活動を希望する方を対象に日本語指導者養成講座（参加費無料）を開催しました。

期　　間　平成 29 年 6 月～9月　全 44 時間
受講者数　29 名
講　　師　西川　寛之（明海大学外国語学部准教授）
会　　場　協会講習室、新富区民館

（5）日本語ステップアップ講座

各教室で活動する日本語指導者の学習需要に対応するとともに、指導力・技法のレベルアップを図るため、ステップアップ講座（参加費無料）を開催しました。

期　　間　平成 29 年 5 月～平成 30 年 2 月　全 7 回（14 時間）
受講者数　延 137 名
講　　師　公益社団法人　国際日本語普及協会へ講師派遣を委託
会　　場　協会講習室

（6）ボランティア活動支援

日本語教室の日本語指導者をはじめとする各種の協会登録ボランティアの活動を支援するとともに、中央区から要請を受け、区事業実施時に協会登録の通訳ボランティアを派遣しました。また、東京都が実施する「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を共催で行いました。

①ボランティアの種類及び登録者数（平成 30 年 3 月末日現在）

登録者数：389 名（実人員）
- 通訳・翻訳ボランティア：106 名
- イベントスタッフボランティア：217 名
- 日本語ボランティア：233 名
- 国際交流サロンボランティア：11 名
- ホームステイ・ホームビジットボランティア：16 名
- 防災語学ボランティア：64 名

②ボランティアの派遣・活動

ア　通訳・翻訳ボランティア及び防災語学ボランティア　延 35 名（総合防災訓練の外国人支援訓練での通訳など）
イ　イベントボランティア　3 名（国際交流サロンにおける茶道等の講師）

③「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座（東京都との共催・参加費無料）

ア　セットコース（おもてなし講座＋語学（英語）講座）
期日及び受講者数　1回目 平成29年7月 3日間 33名
2回目 平成30年3月 5日間 35名
（各回　11 時間 30 分）
対　　象　入門～初級の語学力（英語）を有する者
会　　場　新富区民館

イ　おもてなしコース（おもてなし講座）
期日及び受講者数　1回目 平成29年7月 29日（土）57名
2回目 平成29年8月　5日（土）52名
3回目 平成30年3月10日（土）56名
（各回3時間30分）
対　　象　英語による簡単な日常会話ができる者
会　　場　日本橋公会堂集会室

（7）姉妹都市親善写真展

姉妹都市サザランド市と本区との一層の親善を深めるため、お互いの生活や風景、行事等を紹介する写真を交換し、写真展を平成３０年２月に中央区役所１階、日本橋区民センター１階及び月島区民センター１階で順次開催しました。

（8）外国客船歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船入港時の歓迎行事に参加し、記念品を贈呈しました。

主　　催　東京都港湾局
一般社団法人東京都港湾振興協会
入 港 数　5隻（初入港 1 隻、再入港 4 隻）

（9）国際交流推進事業助成

協会の目的とする事業を推進するため、区民が主体となって行う国際交流事業に対して、事業の実施に要する経費の一部を助成するとともに、後援を行いました。

助成金額：当該事業の対象経費の１／２の範囲内（上限 10 万円）
助成及び後援件数：１件

平成 29 年度決算

＜収入＞

科目	決算額（円）	説明
事業収入	1,475,000	古典芸能鑑賞会、コンサート参加費等
区補助金	96,836,000	中央区からの補助金
寄付金	150,000	東京銀座ロータリークラブ及びイスクラ福祉教育事業団からの寄付金
雑入	269	預金利子
収入合計	98,461,269	

＜支出＞

科目	決算額（円）	説明
事業費	53,884,805	
文化振興費	48,909,596	機関誌の発行、コンサート、文化講座、特別文化講演会、古典芸能鑑賞会、文化推進事業助成、中央区まるごとミュージアム、文化振興プロデュースチーム
国際交流振興費	4,975,209	国際交流のつどい、国際交流サロン、日本語教室、日本語指導者養成講座、日本語ステップアップ講座、ボランティア活動支援、姉妹都市親善写真展、外国客船等の歓迎式、国際交流推進事業助成
管理費	38,077,814	
人件費	33,236,798	職員の給与
管理運営費	4,841,016	理事会、事務費
予備費	0	
合計	91,962,619	
区返還金	6,498,650	中央区補助金の精算返納
支出合計	98,461,269	

協会主催の日本語教室

①水曜日教室
日　　時　毎月第 1・第 2・第 3 水曜日　午後 6 時 30 分～ 8 時
会　　場　女性センター「ブーケ 21」
実施回数　30 回
参加者数　外国人 延 433 名、ボランティア 延 538 名

②木曜日教室
日　　時　毎月第 1・第 2・第 3 木曜日　午前 10 時～ 11 時 45 分
会　　場　協会講習室
実施回数　31 回
参加者数　外国人 延 496 名、ボランティア 延 459 名

③土曜日教室
日　　時　毎月第 2・第 3・第 4 土曜日　午前 10 時～正午
会　　場　協会講習室
実施回数　31 回
参加者数　外国人 延 699 名、ボランティア 延 585 名

協会が支援する日本語教室

①ワールドフレンズ日曜にほんごクラブ
日　　時　毎週日曜日　午前 10 時～ 11 時 30 分
会　　場　日本橋社会教育会館
実施回数　44 回
参加者数　外国人 延 561 名、ボランティア 延 261 名

②日本語おたすけたい
日　　時　月曜日（月 3 回）　午後 7 時～ 8 時 30 分
会　　場　日本橋社会教育会館
実施回数　32 回
参加者数　外国人 延 334 名、ボランティア 延 299 名

③月島日本語倶楽部
日　　時　毎週火曜日　午前 10 時～正午
会　　場　月島社会教育会館
実施回数　42 回
参加者数　外国人 延 182 名、ボランティア 延 209 名

④日本語コミュニケーション・パートナー
日　　時　毎月第 1・第 2・第 3 火曜日　午後 7 時～ 8 時 30 分
会　　場　新富区民館
実施回数　36 回
参加者数　外国人 延 209 名、ボランティア 延 212 名

⑤銀座日本語教室
日　　時　毎月第 1・第 2・第 3 水曜日　午前 10 時～ 11 時 30 分
会　　場　築地社会教育会館
実施回数　33 回
参加者数　外国人 延 217 名、ボランティア 延 249 名

⑥にこにこ日本語
日　　時　毎月第 1・第 2・第 3 木曜日　午後 7 時～ 8 時 30 分
会　　場　佃区民館
実施回数　33 回
参加者数　外国人 延 714 名、ボランティア 延 499 名

⑦にほんご生活
日　　時　毎週土曜日　午後 2 時～ 3 時 45 分
会　　場　築地教会別棟
実施回数　46 回
参加者数　外国人 延 492 名、ボランティア 延 272 名

11月4日（日）、第11回目となる「中央区まるごとミュージアム2018」が開催されました。区内全域を舞台に繰り広げられる秋の人気イベントは、今年も参加者延べ68,000人の賑わいとなりました。

中央区まるごとミュージアム2018

11/4(SUN) 9:00～17:00

中央区全体を一つの大きな“ミュージアム”に見立て、街の魅力や歴史を再発見して楽しむ秋の恒例イベント「中央区まるごとミュージアム」が開催されました。当日は昼過ぎから時折ポツポツと雨が降りだしたものの、イベントは大盛況。中央区の内外から延べ68,000人の皆さまにご参加いただきました。イベントマップを片手に、無料で運行されたバスや船を乗り継いだり路地を散歩したり、区内全域に点在する多彩な催しを思い思いにお楽しみいただきました。

今年は8つの新規事業を加えた44ものバラエティ豊かなイベントが行われました。泰明小学校では、開校140周年・泰明幼稚園開園65周年を記念して「泰明と銀座展〈写真①〉」を開催。明治11年から現在までの貴重な写真100点以上が展示され、PTAガイドさんの解説に多くの人が耳を傾けていました。

新富区民館で行われた「簡単な蒔絵体験会〈写真②〉」では、手のひらほどの大きさのお皿に漆で絵を描き、金粉や銀粉を振って仕上げる蒔絵を体験できました。小学生からご高齢の方まで幅広い年齢の参加者が、初めての漆工芸に挑戦していました。

国内でも貴重な印刷機が展示されているミズノプリンティングミュージアムでは、「活版印刷機による印刷体験〈写真③〉」を実施。スタッフの手ほどきのもと、1860年イギリス製の印刷機アルビオンプレスを使って1人ずつ印刷していました。ローラーで版にインクをつけ、印刷機に紙をセット。レバーをグッと引いてプレスすると、印刷の父・グーテンベルク（ドイツ）の肖像画が刷り上がりました。インクの香りや機械の重さなどを五感で感じる貴重な体験ができました。

あかつき公園を賑わしたのは「みんなでトライ！大道芸〈写真④〉」。例年、船着き場などでパフォーマンスを披露していた東京都公認のヘブンアーティストが、観客を巻き込んで一緒に楽しむ大道芸ミニライブを展開。親子孫三代で楽しめるプログラムに、笑い声や拍手、歌声が絶えない幸せなひと時になりました。

区民の方が描いた中央区の街並みがずらりと並んだのは、アートはるみギャラリーでの「中央区の街並み絵画展〈写真⑤〉」。一人ひとりの街への温かな眼差しを感じる公募展に多くの人が足を止めていました。

そして、目玉企画の一つであります「まち歩きツアー」には、今年も多くの方の応募がありました。「かつて東京にあった外国人が住む街 築地居留地を歩いてみよう〈写真⑥〉」と「まるごとミュージアムコース〈写真⑦⑧〉」の2つのまち歩きツアーには合計83人の方が参加され、多彩な文化資源に触れて、伝統と文化の香り高いまち中央区の魅力を満喫していました。中でも「まるごとミュージアムコース」の「水辺・まちかど展示館めぐり」は、ガイド付きバス散策あり、街歩きあり、船のクルーズあり。「鐵砲洲稲荷神社」では富士講を体験し、「兜町・茅場町まちかど展示館」では華麗なお神輿をガイド付きで見学。さらに「薬研堀不動院」での講談も楽しめる充実の2時間でした。

このほかにも、たくさんの魅力的な催しが開催されました。

今年もご参加いただきました文化事業者・団体の皆さまやボランティアの皆さまの多大なご協力のおかげで、中央区らしさ溢れる素晴らしいイベントとなりました。この場をお借りいたしまして、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。また来年もお会いしましょう！

①泰明と銀座の歴史の説明を受ける家族

②初心者でも蒔絵ができました

③重厚な印刷機械での試し刷り

④観客も一緒に楽しめるヘブンアーティストの名人芸

⑤中央区の街並みを絵画で堪能

⑥ほとんどの参加者が築地に外国人居留地があったことを初めて知りました

⑦隅田川クルーズにいざ乗船

⑧江戸文化に触れられる薬研堀不動院での講談体験

表紙 川越両替商

小川　幸治

旧東京穀物商品取引所（日本橋蛎殻町一丁目）に程近い、日本橋人形町一丁目の地にあった両替商の建物。この辺りには、明治の初め頃に公債取引を行う両替商が多く集まったといわれている。看板には秤の分銅を模した意匠が掲げられており、両替商としての信用と誇りを感じさせる。

特集は、江戸幕末維新史・新選組研究家としてご活躍されている伊東成郎氏に本年6月第20回記念として開催した古典芸能鑑賞会の中で「中央区西郷隆盛こぼれ話～西郷どんと龍馬の妻・龍～」と題して講演をお願いしたところ大変好評でしたので、前号に引き続き講演に関連した内容で寄稿していただきました。

26回目を迎えた「国際交流のつどい」では、料理（スリランカカレーとミルクティ、けんちん汁）や踊り（盆踊り、フォークダンス、サルサ）、呈茶・茶道等日本の伝統文化の体験、スリランカの紹介（独立70周年記念）など様々なコーナーに多くの方々が参加され、楽しく交流を深めていただきました。

11回目となった「まるごとミュージアム2018」では、新規8事業を加えた44の多彩なイベントが繰り広げられ、延べ68,000人の方々に中央区の文化的な魅力を満喫していただきました。

発行／中央区文化・国際交流振興協会　〒104-0041　東京都中央区新富1-13-24　新富分庁舎3F　TEL 03-3297-0251　FAX 03-3297-0253　URL: https://www.chuo-ci.jp/